



電車 JR近江今津駅まで
 ■京都駅から…JR湖西線新快速で約50分
 ■米原駅から…JR北陸本線新快速で近江塩津駅まで約35分、近江塩津駅からJR湖西線で約20分
 ■敦賀駅から…JR北陸本線・湖西線新快速で約40分

車
 名神高速道路 京都東ICから約50分
 北陸自動車道 木之本ICから約40分
 舞鶴若狭自動車道 小浜ICから約45分
 ※高島市役所(高島市新旭町北畑565)を基準点としています。

タクシーのご案内
 ◆大津第一交通(株)
 TEL:0120-524-447

バス
 市内路線バスに関するお問合せ
 ◆高島市都市政策課
 TEL:0740-25-8571



この情報紙に掲載しているスポットを地図に掲載しています



たかしま 戦国

TAKASHIMA

ヒストリー

湖と山に刻まれた 戦国の足跡



戦国メシ



田中城跡 (観音寺への階段)

信長の隠れ岩

湖国・高島市 歴史と食のまち

歴史観光施設



高島市の多様な歴史文化を、見て・学んで・体感できる施設

中江藤樹・たかしまミュージアム
 地域で大切に受け継がれてきた歴史資料や映像を展示しています。また、4月からは「高島の戦国時代」展が行われます。

「高島の戦国時代」展 2026年4月7日～12月27日

¥高校生以上/300円
 中学生以下/無料
 ①安曇川町上小川69
 ☎0740-32-0330
 ②9:00～16:30
 ③月曜(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日が休館)、年末年始



陣屋に関する建造物で唯一現存する貴重な文化財

大溝陣屋 総門
 地域文化財の展示や、大溝城をCG映像で再現した紹介動画(約15分)が随時放映され、観光客や歴史ファンの方に気軽にお立ち寄りいただける空間となっています。



大溝の水辺景観まちづくり協議会 (大溝陣屋 総門内)
 ①無料
 ②勝野1688
 ☎0740-36-2011
 ③10:00～17:00
 ④水曜

訪れた記念に! お城グッズ

高島市内で販売中の御城印
 ◆大溝城 販売処/大溝陣屋 総門
 ◆清水山城 販売処/たかしま・まるごと百貨店

他にも、やさしい甘みが人気の「あまざけ飴」等のお城グッズも好評販売中! (販売所/大溝陣屋 総門)
 あまざけ飴は、大溝の湧き水で造られる地元名酒「萩の露」の酒粕を使った総門オリジナルのお土産です。

歴史観光ガイド

大溝・白鬚 水辺ガイドの会 ☎0740-36-2011 (大溝の水辺景観まちづくり協議会(大溝陣屋 総門内))
 高島町観光ボランティア協会 ☎0740-36-0048
 湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部 ☎090-4687-7589
 今津地域住民自治協議会(歴史文化部会) ☎090-4927-3222
 マキノツーリズムオフィス ☎0740-28-8002

<p>観光案内所</p> <p>※営業時間は変更の可能性あり。最新情報はHP等でご確認ください。</p>	<p>■JR近江高島駅構内 観光案内所 ☎0740-36-1314 ①9:00～13:00/14:00～17:00 ②ただし、12/1～2/28は9:00～14:00 ③年末年始</p>	<p>■JR新旭駅前 びわ湖高島観光協会 (観光物産プラザ内) ☎0740-33-7101 ①9:00～17:00 ②日曜・年末年始</p>	<p>■JRマキノ駅構内 観光案内所 ☎0740-28-1188 ①9:00～17:00 ③年末年始</p>	<p>■道の駅 かつき新本陣観光案内所 ☎0740-38-2398 ①9:00～17:00 ②火曜・年末年始(振替休館日あり)</p>
	<p>■JR安曇川駅構内 観光案内所 ☎0740-32-2464 ①9:00～13:00(土日祝のみの営業※) ③年末年始</p>	<p>■JR近江今津駅構内 観光案内所 ☎0740-22-4201 ①9:00～13:00/14:00～17:00 ②ただし、12/1～2/28は9:00～14:00 ③年末年始</p>	<p>■道の駅 藤樹の里あどがわ観光案内所 ☎0740-32-8460 ①9:00～18:00(4・8・11月は無休) ③第2水曜・元日</p>	<p>■道の駅 マキノ追坂峠観光案内所 ☎0740-28-8081 ①9:00～18:00 ②火曜・年末年始 (祝日・行業シーズンは営業)</p>



高島市の歴史



田中城跡 天主跡から



たかしま 戦国史跡めぐり

歴史

山城から平城
～戦う城から政治の城へ～

戦国時代の城郭は、領国支配の拠点として防衛機能を重視した山城が中心であり、まさに戦う城でした。高島市内に、西佐々木氏一族越中氏の居城で湖西最大規模を誇る清水山城や、田中城など多くの山城が築かれ、乱世を駆け抜けてきました。

戦国末期になると、戦う城から経済と政治の拠点として、平地に城が築かれるようになります。戦国の覇者・信長の甥 織田信澄によって築かれた大溝城は、琵琶湖の水運と、西近江路が交わる水陸交通の要衝の地に位置しており、まさに政治と経済の拠点であったことがわかります。

戦う城から政治の城への変遷を辿り、中世から近世の歴史を体感してみませんか。



代表的な高島市の

山城



清水山城館跡 (注)新旭町熊野本・安井川

西佐々木一族の惣領家である越中氏が城主と考えられています。戦国期の有力領主のあり方を知る上で貴重な城郭であることから、清水山城遺跡・清水山遺跡(清水山・屋敷地)・本堂谷遺跡(大宝寺・屋敷地)の範囲が清水山城館跡として国史跡に指定されました。



田中城跡 (注)安曇川町田中

西佐々木氏一族田中氏の居城であった田中城は、中世末期の山城で、現在も上寺(うえでら)区西側の山間部にその遺構を残しています。主郭があったとされる曲輪の標高は220m、平地との比高差はわずか60mで同時期の山城と比べ低い場所に位置しますが、要所に堀切、土塁、武者隠しなど外敵を防ぐための遺構が見られます。

元亀元年(1570)、織田信長は越前の朝倉義景を討つため「田中の城」に逗留したと「信長公記」に記されており、この軍勢には後の豊臣秀吉、徳川家康も参加していました。その後、浅井長政の勢力下に置かれた田中城は、元亀4年(1573)に信長によって攻略され、明智光秀の支配を受けて終焉を迎えました。

田屋城跡 (注)マキノ町森西

田屋城は、北陸道と知内川に沿って若狭に至る街道を見下ろす「城山」と呼ばれる標高約320mの丘陵の尾根先端にあり、海津衆の田屋氏の城と伝えられています。城は、堅固な土塁で囲まれた六つの曲輪で構成されています。城内に入ると広い曲輪が連続し、曲輪群の北奥には、主郭と考えられるひときわ高い土塁で囲まれた曲輪があります。主郭の背後には、県下の城郭でも最大級の堀切を設け、背後の曲輪と画しています。城の南と西斜面の堅堀は、他の遺構と規模に違いがあり、元亀・天正年間に改修されたものと推定されます。

経済の発展

京都と北陸諸国を結ぶ交通の要衝であり、琵琶湖の水を活かした陸運と水運が交わる物流の要として発展

今津浦 (注)今津町今津

京都と越前を結ぶ西近江路(北国街道)は、中世においては、大軍が移動するなど軍事面でも重要な街道であったと考えられています。また、今津は若狭国をつなぐ九里半街道の終起点でもあり、まさに若狭国と越前国の結節点となる重要な場所に位置していました。

天正11年(1583)6月1日に、豊臣秀吉が発した判物によると、若狭から京都や大阪に運ぶ物資は、今津浦で船に乗せて琵琶湖の水運を使うように命令されています。港の数を絞り、湖上交通を一手に管理しようとする意図があったとされ、日本海経由の物資の統制が課題であった中で、今津浦が流通の拠点として重要視されていたことがわかります。



今津に鎮座する住吉神社

住吉神社は、弘安元年(1278)に創建されたと伝えられています。航海と海上守護の神様として湖上の安全を願い祀られています。本殿の裏には、前田利家公の祖霊社があります。



近代まで防波堤の役目を担っていた今津の石垣

加賀藩の前田氏は、今津・弘川、マキノ町海津の一部に飛地領を有していました。文禄4年(1595)、豊臣秀吉から前田利家に、京への往來のための宿泊地として、今津と弘川が与えられたことから始まります。前田利家の上洛の際や、前田利常の大坂の陣の出兵時には今津を経由したと伝えられています。今津に所在する曹澤寺には、前田利家の室である芳春院(まつ)の位牌が安置されています。今津浦の湖岸には石垣が見られますが、この石垣は加賀藩が巡検使の巡回に備えて築いたとされ、約950mの長さがあります。今津代官所が置かれていた付近には、比較的巨大な石が積み、浜辺に突出した部分もあるので、今津浦の船場の痕跡ではないかと考えられています。この石垣は、近代まで防波堤の役目を担っていました。

代表的な高島市の

平城



大溝城跡 (注)勝野

戦国の覇者・織田信長は琵琶湖の「水の利」を生かし城郭ネットワークを形成するべく、長浜城・安土城・坂本城に加え、高島に「大溝城」を築かせました。

大溝城は天正6年(1578)信長の甥である織田信澄により築城されました。智将の明智光秀が設計したとされ、石垣が往時の繁栄を物語っています。本丸の南東の乙女ヶ池を外堀とする水城であり、「鴻溝(こうこう)城」とも呼ばれました。

後に、京極高次が城主となったことでも知られます。やがて天守は解体され甲賀市の水口岡山城に移され、石積みだけが現存しますが、天正期の築城技術の特徴を残しています。



江戸期の大溝

大溝城下は、元和5年(1619)伊勢上野から入封した分部氏に引き継がれ発展します。分部光信が城主となり12代光謙(みつりの)の廃藩置県までその支配が続きました。光信は、大溝城三の丸に推定される場所に陣屋を構え、水路や街路を整備し武家地と町人地を区切り、軍事・経済両面を備えた近代的な城下の整備に尽力しました。大溝陣屋の正門である総門が現存し、当時をしのぶ長刀町・蠟燭町などの町名が残っています。また、大溝城近くの分部神社には大溝歴代藩主が祀られ、圓光禅寺には墓があります。



大溝陣屋 総門



▲今も残る町割り水路

Episode エピソード

～高島市に残る逸話～

阿弥陀寺と杉谷善住坊

高島市新旭町旭(堀川)に所在する阿弥陀寺は、織田信長にまつわる逸話が残っています。元亀元年(1570)織田信長は越前朝倉氏への攻撃中に浅井長政の裏切りにより、京への撤退を余儀なくされました。その翌月、京から居城のある岐阜に戻ろうとした際に、信長は近江と伊勢を結ぶ千草越と呼ばれる峠道で、鉄砲の名手であった杉谷善住坊にわずか20m程の距離から二発狙撃されました。しかし、弾丸は信長の身をかすめただけに終わり、善住坊はいち早く姿をくらましたとされています。

その後、善住坊は高島郡堀川村の阿弥陀寺に潜伏しましたが、天正元年(1573)9月に、信長の家臣で高島郡の支配を命じられていた磯野員昌によって捕縛され、極刑に処せられたとされています。

高島市の歴史を味わえる

戦国メシ



(注)朽木市場838
☎0740-38-3711
🕒10:00～18:00
📅火曜日・年末年始

丸八百貨店のへしこ御膳

戦国時代、京の都と若狭をつなぐ鯖街道の中継点に位置した朽木で、昔から作られてきた発酵食品「鯖のへしこ」。朽木の殿様も愛したであろう「へしこ御膳」を朽木の美味しいお米と共に召し上がりください。最後はお茶漬けでご堪能を。



(注)今津町今津1689-2
(今津サンブリッジホテル内「湖畔のレストラン あしみ」)
☎0740-22-6666
🕒11:30～15:00(L.O.14:30)
📅無休 ※前日までに要予約

今津サンブリッジホテルの戦国武将釜炊き御膳

戦国の乱世にあって、豊臣秀吉からも流通の拠点として重要視された今津浦。土間で炊きあげ釜飯をイメージしたほかほかの白御飯。お米は高島の美しい水と豊かな土壌で育まれた近江米を使用。戦国武将の心意気を、高島の選りすぐりの食材を取り入れ表現しました。